

国語	サードステージ 目標									
	言語を通して思考を深め、確かな批判力に根ざした自己の思想を生み出し、同時に他者を理解し、共感し合う力をつける。日本の文化・伝統・歴史への理解を深め、他国の人々に伝える力を養う。									

学年	科目	現代文				科目	古典					聖心の特色	
		文学的文章		論理的文章	文学史		その他	散文(物語・随筆)	韻文(詩歌)	文学史	文法		その他
		小説・随筆	詩歌	評論									
12年 (高3)	論理国語(必修)	様々な事象を人間が抱える普遍的な問題として深く考え、自己の確立に繋げる。				古典講読(選択)	古典作品を味わい、背景となる日本や中国文化、歴史に対する理解を深めるとともに普遍的な人間の思いに触れる。					〈9年～12年〉 漢字コンテスト実施 外部コンテストへの参加の奨励 古典学習の内容の精選、及び配当順の工夫 〈12年〉 選択科目における発表形式授業(大学ゼミ初歩程度)の実施	
	近代日本文学(選択)	作者の思想と作品との関係を考え、近代社会への批判や提言を読み取る。	近代日本の代表的な評論を通して、日本人の思想や価値観の形成過程を知る。筆者の思考の展開や独創的な批判に込められた工夫を知る。	文学史上の主要な作品の冒頭文を読む。日本の近代文学史の流れを理解する。	幅広い領域で必要となる語彙力に繋がる漢字力を定着させる。	[古文]	辞書や資料を活用して、自力での原文読解に挑む。 作品の成立背景や他作品との関係なども踏まえながら読解し、解釈を深め、味わう。		作品に即して、時代背景とともに整理する。	これまでに習得した文法事項を、原文読解、鑑賞に繋げる。	読解に必要な語彙や古文に関する知識を整理して習得する。		
11年 (高2)	論理国語(必修)	批判眼を持って社会の事象を理解し、自己の思想や感性を深め、論理的に表現する。				古典(必修)	古典作品を読み、背景となる日本や中国文化、歴史に対する関心を深めるとともに普遍的な人間の思いに触れる。					〈10年〉 歌舞伎鑑賞教室実施 〈9年〉 本格的な古典学習の開始	
	現代文演習(選択)	近代的自我の確立過程を知り、自らの自我意識を認識する。「近代」に対する認識を持つ。	異なる他者の思想に触れ、それを受け入れる思考の柔軟性を持つ。	取り上げる作品の作者に関する知識を学び、その文学史上の位置を知る。	常用漢字を超えて、語彙力に繋がる漢字力を身につける。	[古文]	作者の個性的な視点を通して、平安時代の後宮社会に触れる。同じ歴史的な事象を扱った複数の作品を比較する。	三大歌集から主要な作品を読み、その特徴を理解する。	古典文学史の概要を学ぶ。	文語文法の応用力をつける。	読解に必要な語彙(古文単語)を増やす。		
10年 (高1)	現代の国語(必修)	自己の体験可能範囲を超えた事象の分析を通して、その意味を問う。				言語文化(必修)	古文・漢文を読み、正確に内容を捉え、日本や中国文化に対する関心を深める。					〈9年〉 本格的な古典学習の開始	
	現代文演習(選択)	作者の思想と作品との関係を考え、近代社会への批判や提言を読み取る。現実離れした設定の狙いを正確に捉える。	近代詩の主な作品を読みながら文学史の流れを把握する。文語体の作品にも慣れる。	筆者の思考の展開や独創的な批判に込められた工夫を知る。内容の理解のための客観的な文章分析方法を身に付け、適切に要約する。		[漢文]	中国史に関連する作品を読む。		日本との関連性の高い作品に関しては、文学史上の位置を知る。	句法を学ぶ。			
9年 (中3)	現代の国語(必修)	文章を正しく理解、表現することを通して、ものの見方や考え方を広げ、深める。				言語文化(必修)	古文・漢文を読み取るための基礎知識を身につける。自国の文化、伝統について関心を深める。					〈9年〉 本格的な古典学習の開始	
	現代文演習(選択)	作者の視座から作品を読む。作品と作者との関連性を学ぶ。	近現代の短歌の主な作品を読む。	哲学的倫理的なテーマを扱った作品を読む。評論特有の語彙や言い回しに慣れる。	取り上げる作品の作者に関する知識を学び、その文学史上の位置を知る	常用漢字を超えて、語彙力に繋がる漢字学習を行う。	[古文]	様々なジャンルの文章を読み、それぞれの特徴を知る。古典から材をとった近代文学を読み、比較する。		文語文法を定着させる。	読解に必要な語彙(古文単語)を増やす。		
9年 (中3)	現代の国語(必修)	文章を正しく理解、表現することを通して、ものの見方や考え方を広げ、深める。				言語文化(必修)	古文・漢文を読み取るための基礎知識を身につける。自国の文化、伝統について関心を深める。					〈9年〉 本格的な古典学習の開始	
	現代文演習(選択)	小説読解についての基礎知識や技法を学ぶ。	近現代の俳句の主な作品を読む。	結論に至るまでの道筋を正確にたどる。	日本文学史(上代～近代)の基礎的事項を学ぶ。	常用漢字の読み書きの定着を図る。	[漢文]	故事成語や中国史に関連する作品を読む。	唐代の有名な作品を読み、中国の詩の形式を知る。	再読文字や重要句法を学ぶ。			

地理・ 歴史・ 公民 (社会科)	サードステージ 目標 現実社会の多様な価値観を理解し、考察・判断した上で実践につなげる力を養う。
-------------------------------------	--

学年	地理・歴史		公民		聖心の特色
	科目		科目		
12年 (高3)	地理探究 (選択)	地理総合で扱った系統地理の内容を深化・応用し、地誌的内容を学ぶ。地理総合で学んだ世界全体の諸様相をふまえ、グローバルな視点からローカルな地域の特徴やその特徴の背景を整理し、各地域ごとに知識・理解を深めることを目的とする。統計資料を読み取る力を身につけ、GISも用いて客観的に地域の特徴をとらえ、分析する力を養う。	政治・経済 (選択)	〔事例学習〕 個人発表、レポート、ディスカッションやディベート等を通じて、現代の諸課題について、多面的・多角的に考察する。自分の考えを、根拠をもとに論理的に表現するとともに、多様な考えの中に自分を位置づけて、議論する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 12年は数Ⅲ選択者以外、倫理もしくは政治経済の必修選択となっている。卒業時に社会科学的な視座を涵養する事を目的とする。 機会を捉えて本物に触れるようにする。(史跡巡り・裁判傍聴など) レポートや小論文・ディベートなどの機会を設け、問題解決能力を鍛える。 個々に興味関心のある小テーマを選択し、プレゼンテーションを行う。 ICTを活用した授業 例：Google Classroomを活用した課題の配信 Google フォームを利用した学習の確認 政治・経済では、模擬裁判・模擬国連などを実施する。 倫理では、小グループによる哲学対話を通して、民主的な議論の姿勢を学ぶ。
	日本史探究Ⅱ (選択)	〔室町時代から第一次世界大戦まで〕 歴史的な見方・考え方を働かせ、アジアや欧米諸国など世界史との関係にも着目しながら、時代の転換点である近世から近代の歴史を深く理解する。			
	日本史探究Ⅲ (選択)	〔第一次世界大戦後から現代まで〕 歴史的な見方・考え方を働かせ、世界史との関係にも着目しながら近現代の歴史を客観的かつ公正な資料に基づいて、正確に理解し、平和で民主的な国際社会を実現する意識を養う。			
	社会特講 (選択)	旧石器時代・縄文時代から始まり、現代までの文化史を学ぶ。日本の伝統と文化について、時期や年代に応じた特色を比較し、相互の関連や現代とのつながりにも着目し、多面的・多角的に考察する。	倫理 (選択)	構造主義以降の現代哲学を学びながら、他者の尊重・公正な社会について自分の意見を深め、協学とわかりやすく発信する姿勢を育てる。答えのない問いについて、問いの立て方、ものの見方・考え方を理解し、自分自身の考察を深めていく。「人間の尊厳と平等」「自由」「権利」「責任」などのテーマごとに、倫理での学びを通して現代の諸課題について、多角的・実践的に考える訓練をする。	
	世界史探究Ⅱ (選択)	〔ヨーロッパ中世以降帝国主義時代まで〕 諸地域の複合的・重層的な繋がりを、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解く。多面的多角的に考察する活動を通して、諸地域の交流・再編を構造的に理解することを目的とする。			
世界史探究Ⅲ (選択)	〔帝国主義時代から現代まで〕 戦間期を中心に冷戦構造そして冷戦後の現代の社会までを学ぶ。現代における地球世界の課題を歴史的事実に基づき探究する姿勢を養い、より良い世界の実現を展望する。				
11年 (高2)	地理総合 (必修)	地理総合では主に系統地理の内容を扱う。また、地形学習とGISの初歩的な実習を通し、地域防災について考察する。地形・気候など自然地理的内容、人文地理的内容として農業、工業、資源・エネルギー、人口問題、言語・宗教、民族問題、国際関係について学ぶ。7年生で学んだ世界地理の内容を踏まえた上で、世界全体を俯瞰した視点・知識の獲得を目指す。	公共 (必修)	〔青年期をめぐる諸問題・ギリシア哲学・中国の思想・三大宗教〕 自己の生きる課題との関わりにおける青年期の意義を理解する。世界と日本の源流思想を学習し、自己の生き方について考える。 〔近現代西洋哲学〕 哲学の教養を深め、様々な思潮を通して知性を鍛錬し、生きる主体としての自己を確立する。ひとつの真理を客観的に掘り下げ、相対化・抽象化して考える習慣を付ける。 〔現代の国際政治・現代経済・世界経済と日本など〕 世界と日本の関わりを中心に基本的な社会の成り立ちについて理解を深めさせるとともに、広い視野に立って現代社会の諸問題について主体的に考察する能力と態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> レポートや小論文を課し、思考力の訓練を行う。 高校生模擬国連大会への参加に向けて準備する。 ディスカッションや対話を通して様々な立場の人の意見に触れ、思考を深める 宗教・思想史について、倫理的分野を深める。 ICTを活用した授業 例：Google Classroomを活用した課題の配信 Google フォームを利用した学習の確認
	日本史探究Ⅰ (選択)	〔弥生時代から鎌倉時代まで〕 歴史的な見方・考え方を働かせ、アジア及び太平洋地域を中心に、世界史との関係にも着目しながら、日本の社会の土台となった古代から中世の歴史を深く理解する。			
	世界史探究Ⅰ (選択)	〔文明の成立からヨーロッパ中世まで〕 世界各地の歴史的特質がどのように形成されたのかを問いを立てながら解明していく。地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について、根拠となる資料を活用して探究することを目的としている。			
10年 (高1)	歴史総合 (必修)	〔近現代史〕 大航海時代以降、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながる近現代の歴史を理解する。現代とのつながりを意識し、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究する。			<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題とのつながりを重視し、指導要領の単位数より1単位増で実施している。 グループワークやワークシートを通じて、多角的なものの見方、考え方を養う。 レポート課題を通して、論理性を鍛える。 ICTを活用した授業 例：Google Classroomを活用した課題の配信 Google フォームを利用した学習の確認
9年 (中3)	歴史	〔明治以降現代まで〕 (8年(中2)の歴史分野の続き) 日本の歴史を学習し、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色を理解する。関わり深いアジア諸国との交流について理解することで、様々な歴史的事象を多角的に考察し、公正に判断する力を高める。	公民	〔日本国憲法・基本的人権・平和主義・国民主権・くらしと経済・政府の役割・社会保障・国際社会〕 国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培うとともに、社会の諸問題に着目し自ら考えようとする態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 東京地裁へ裁判傍聴に行き、社会問題への関心を深める。 時事問題を適宜授業で扱う。 レポート課題を通して、課題発見力を養う。 高校生模擬国連大会への参加に向けて準備する。 模擬国会・模擬選挙・企業設立学習などを行う。 ICTを活用した授業 例：Google Classroomを活用した課題の配信 Google フォームを利用した学習の確認

数学	サードステージ 目標 論理的な思考力に基づいて、さまざまな事象を数学的に捉え、活用する力を養う。				
-----------	---	--	--	--	--

学年	代数 (数と式)	幾何 (図形と式)	解析 (数量関係)	確率・統計 (データの活用)	数学的活動	聖心の特色
12年 (高3)			数学Ⅲ (選択) [極限] 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。既習の関数の性質と関連付けて、分数関数や無理関数等のグラフの特徴を多面的に考察する。 [微分法・積分法] 微分法・積分法についての理解を深めるとともにその有用性を認識し、事象の考察に活用する。		数学総合演習 (選択) 数学と生活、数学と文化の関わりや社会的有用性についての認識を深める。数や数学の成り立ちを知ることによって数学についての理解を深める。ゲーム・パズルの原理を通して数学的思考力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・選択者による少人数学習 ・数学Ⅲは5単位分を設定し、細やかな指導、演習量の確保を実現する。
11年 (高2)	数学B (選択) [数列] 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、活用する。	数学Ⅱ (必修) [図形と方程式] 座標や式を用いて、直線や円などの平面図形の性質や関係を数学的に表現し活用する。 数学C (選択) ※ [ベクトル] ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識し、活用する。 [平面上の曲線] 平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用する。	数学Ⅱ (必修) [対数関数] 関数の特徴や有用性を理解し、事象の考察に活用する。 [三角関数] 角の概念を一般角まで拡張し、三角関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、多面的に考察する。 [微分・積分の考え] 微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化の考察、グラフの概形、求積の方法等について学ぶ。 数学C (選択) ※ [複素数平面] 複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用する。	数学B (選択) [統計的な推測] 標本調査の考え方、確率分布、二項分布と正規分布の性質や特徴について理解し、それらを事象の考察に活用する。		<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数学習を行い、細やかな指導を実現する。 ※数学Cは12年でも履修可能
10年 (高1)	数学Ⅱ (必修) [いろいろな式] 多項式の除法や分数式の四則計算、因数定理などについて理解する。数を複素数まで拡張する意義を理解する。等式や不等式を論理的に考察し証明する。 数学A (必修) [数学と人間の活動] 整数の性質について理解を深め、活用する。	数学A (必修) [図形の性質] 三角形、円、空間図形に関する基本的な性質について理解し、それらを用いて論理的に考察・説明する。	数学Ⅰ (必修) [2次関数] 2次関数とそのグラフの特徴について理解し、数量の関係や変化を表現する有用性を認識する。2次関数の最大値・最小値や2次不等式の解を求めることができる。 数学Ⅱ (必修) [指数関数] 関数の特徴や有用性を理解し、事象の考察に活用する。	数学A (必修) [場合の数と確率] 具体的な事象を基に順列および組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。確率の意味や基本的な法則について理解を深め、具体的な事象に活用する。	数学ⅠⅡ・数学A (必修) [課題学習] 身近な事象と数学のかかわりや数学の歴史、原理などについて自由研究、レポートを作成する。数学図書を読み、感想文を書くなど主体的な学習によって数学の考え方の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学ⅠⅡにおいては習熟度別少人数学習を行う。 ・自由研究：自らの興味関心に基づいてテーマを決め、調べ研究する主体的活動を通して数学の考え方の良さを知る。
9年 (中3)	[2次方程式] 2次方程式の必要性とその解の意味を理解する。解法を学ぶとともに、2次方程式を具体的な場面で活用する。 数学Ⅰ [数と式] 数を実数まで拡張する意義を理解する。また、式を多面的に捉え処理することができる。 数学Ⅰ [数と集合] 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、事象を論理的に考察することができる。	[三平方の定理] 三平方の定理を見いだして理解し、それを具体的な場面で活用できる。 数学Ⅰ [図形と計量] 三角比の意味や性質を理解する。図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、事象の考察に活用できる。	[関数 $y=ax^2$] 具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現する力を伸ばす。	数学Ⅰ [データの解析] 統計の基本的な考え方や活用方法を理解し、データを整理・分析することができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校用の教材を使用し、高等学校の学習内容も取り入れながらより系統的な学習を実現する。 ・図形と数式に分け、それぞれ別の教員が授業を担当。さらに図形においては習熟度別少人数学習を行う。 ・併設型中高一貫校の特例により、高等学校「数学Ⅰ」のうち1単位を9年生で履修する。

理科	サードステージ 目標 現在人類がどのような状況におかれているか、将来どのようなことが起こりうるかについて科学的に知識を深め、自分で考え正しい判断ができるような力を養う。
-----------	--

学年	現象とエネルギー	物質と変化	生命	宇宙と地球	聖心の特色
12年 (高3) 選択	物理 [様々な運動] 様々な運動について分析を行い、考察する。 [波] 音や光を波動現象としてとらえる。 [電磁気] 電磁気について系統的に理解を深める。 [原子] 電子やエネルギー準位、原子核反応について理解を深める。	化学 [有機化合物] 脂肪族化合物および芳香族化合物の性質を知り、それらの化学反応を理解する。 [高分子化合物] 高分子とその単量体の性質、合成法を知り、高分子材料の活用について理解を深める。 [物質の変化と平衡] 化学反応の速さと化学平衡、電離平衡について理解する。	生物 [代謝] 生命活動の代謝についての理解を深める。 [遺伝情報の発現] 遺伝情報の発現とその調節の方法を知り、バイオテクノロジーの理解を深める。 [生態と環境] 生物群集と生態系について理解を深める。 [生物の進化と系統] 生物を分類し、進化の様子を探る。	地学特講 [私たちの地球のこれから] 学校周辺の地形変動の調査を行い、これからの地球環境について考察する。 [地球の活動] 火山灰や火成岩のプレパラート作りを通じて地球の活動について知る。 [宇宙の構造] 星図の作製や天体観測を通して宇宙の構造を探る。	9～12年までのすべての科目において体験的実験観察を重視したカリキュラムを行う。特に身のまわりの物質や現象を題材とし、以下のことを重視する。 ・校内の自然環境を活用して、観察実習を行う。 ・顕微鏡の操作方法を習得して、様々な観察を行う。 ・実験結果からグラフ解析を行う。 ・実験レポートの書き方を習得する。 ・地球環境における人間の役割について考える。
11年 (高2) 選択	物理基礎 [運動とエネルギー] 力と運動を理解した上で、両者をつなげる「運動の法則」を導く。仕事と関連付けて力学的エネルギー保存則を理解する。 [物理現象とエネルギー] 波の性質、電気、熱運動を理解し、様々な物理現象についてエネルギーの視点から探る。	物質の状態] 化学結合と結晶、物質の状態変化、気体や溶液の性質についての理解を深める。 物質の変化] 化学反応と熱・光、電池・電気分解について理解する。 [無機物質] 非金属元素、金属元素の性質を知り、物質の工業的製法、実験室での製法について理解する。	[細胞と分子] 生体を構成する物質について知る。 [生殖と発生] 遺伝子の多様な組み合わせを知ることから、生物の多様性が生まれることに気付く。 [生物の環境応答] 動物の刺激に対する反応について、理解する。植物が環境の違いにより、様々な反応をおこすことに気付く。	地学基礎 [宇宙の進化] 太陽と惑星の誕生の様子を知ることにより、宇宙の進化を探る。 [地球の変遷と生物の進化] 地層や岩石の観察を通して、地球の変遷と生物の進化について知る。 [地球の概観] 地球におこっている地震や火山、大気と海洋の動きについて理解を深める。	物理基礎・・・11年 ・気柱の共鳴解析 等 物理・・・12年 ・光の干渉による波長測定 ・条件の違いによる等電位線観察 等 化学基礎・・・10年 ・食酢に含まれる酢酸の濃度の測定 等 化学・・・11、12年 ・電気化学や熱化学の実験 ・医薬品の合成と分析 ・醤油の塩分濃度の測定 等
10年 (高1)		化学基礎 [物質の成分と構成元素] 物質の分類と分離法について知る。 [原子の構造と元素の周期表] 原子の構造について理解を深める。 [化学結合] 化学結合の様式およびその結合を持つ物質の性質について理解する。 [物質の変化] 化学反応の定量的な取り扱い、酸と塩基の反応、酸化還元反応について理解する。	生物基礎 [生物の共通性と多様性] 細胞の構造と機能について理解する。 [細胞とエネルギー] エネルギーを得る代謝について理解する。 [生物の体内環境とその維持] 体内環境とその維持について理解する。 [生物の多様性と生態系] 世界の気候とバイオームについて知る。 [遺伝子とそのはたらき] 遺伝子の発現について理解する。		生活科学・・・12年 ・食品に含まれる物質の分離精製 ・生分解性プラスチック分解菌のスリーニング 等 生物基礎・・・10年 ・酵素反応 ・血液凝固の観察 等 生物、生物実習・・・11年、12年 ・DNA の電気泳動などバイオテクノロジー関連の実験 等
9年 (中3)	[力のつり合い] 力のつり合う条件を知る。 [力と運動の関係] 運動を記録し、力を受けた運動を理解する。 [仕事とエネルギー] 仕事と力学的エネルギーを理解し、様々なエネルギー資源や発電方法について考察する。	[水溶液とイオン] 原子の構造や性質から、イオンのつくりについて理解する。 [酸・アルカリとイオン] 酸・アルカリのイオニックな違いを知り、中和反応について理解する。 [化学変化と電池] 化学変化から電子の流れを取り出せることを理解し、それが電池であることに気付く。	[生物どうしのつながり] 生物と環境の関わりを知ることにより、生態系のつり合いについて理解する。 [生物の成長] 細胞分裂の仕組みについて理解する。 [生命のつながりと進化] 生物のいろいろな殖え方を知り、生物の普遍性と多様性が生じたことに気付く。また、生物の進化の歴史を知る。	[地球と宇宙] 太陽系とその中の天体について知り、地球から見た天体の動きをとらえる。その動きの規則性を理解し、宇宙の広がりについて気付く。	地学基礎・・・11年 ・城ヶ島における地学巡検 地学特講・・・12年 ・岩石プレパラート作成 ・校内の天文台での天体観測 ・学校周辺の巡検 等 長崎研修旅行事前学習・・・10、11年 原子核・放射線とその利用について化学基礎、生物基礎、物理基礎の各科目において取り扱う。

保健体育	サードステージ 目標
	1. 生涯体育に向けての基礎的な力を育てる。
	2. 主体的かつ計画的に取り組む姿勢を養う。
	3. 仲間と1つのものを創り上げる力を付ける。
	4. 社会の健康に目を向ける姿勢を育てる。
5. 保健情報を正しく選択する力を養う。	

学年	体づくり運動	器械運動	陸上競技	水泳	球技	武道	ダンス	体育理論	保健	聖心の特色
12年 (高3)	体力の構成要素や実生活への取り入れ方を理解し、継続して行う。	〔器械運動〕 選択授業の中で取り上げ、自己に適した技を高め、演技する。	〔陸上競技〕 自己の課題に応じた取り組みを工夫し、各種目特有の技能を高める。	〔水泳〕 様々な泳法を練習し、自主的に課題に取り組む。 生涯にわたって楽しむ関わり方を見つける。	〔球技全般〕 選択必修とし、自分の特性に合った種目を選び、自ら親しむ能力を高め、継続して行う習慣を付ける。	〔武道〕 選択授業の中で取り上げ、基本動作を習得し、得意技を用いて攻防を展開する。	〔創作ダンス〕 表したいテーマにあった動きや構成を考え、学年全体で表現し、発表する。	〔体育理論〕 豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解する。	〔薬品の正しい使い方〕 医薬品を正しく使う力を身に付け、薬物乱用をしないことを目指す。 〔女性のライフスタイルと健康〕 妊娠・出産について学び、生命に直接関わる身体であることを知る。 加齢による心身の変化を理解し、受容する。 〔乳幼児の健康〕 乳幼児の心身の発達の特徴を知る。	ステージ後半では選択制授業を導入している。1人1人の興味・関心を伸ばし、生涯体育につながる授業を行う。 7面あるテニスコートを活用して、テニスの一斉授業と選択授業を実施する。
11年 (高2)	自分や仲間の心と体に向き合い、課題に応じた運動を工夫する。	〔器械運動〕 選択授業の中で取り上げ、自己に適した技を高め、演技する。	〔短距離走・リレー〕 中間走の高いスピードを維持する力を付け、記録の向上につなげる。 〔長距離走〕 ペースの変化に対応する力を付けて記録を向上させる。	〔水泳〕 立ち泳ぎ、横泳ぎの基本を習得する。 今まで学んだ泳法について各自が挑戦する課題を設定し、記録向上につなげる。	〔球技全般〕 選択必修とし、自分の特性に合った種目を選び、技能を高め、勝敗を競う力を付ける。 〔バドミントン〕 状況に応じた返球ができ、連携して攻防する力を付ける。	〔武道〕 選択授業の中で取り上げ、基本動作を習得し、得意技を用いて攻防を展開する。	〔創作ダンス〕 表したいテーマにあった動きや構成を考え、学年全体で表現し、発表する。	〔体育理論〕 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する。	保健分野では、全ステージを通して健康とは何かを主体的に捉え、生涯を通じる健康について積極的に目を向ける心を養う。	
10年 (高1)	健康・安全に気を配り、体づくり運動に主体的に取り組む。	〔器械運動〕 技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高め、演技する。	〔短距離走・リレー〕 中間走へのつなぎを滑らかにし、記録の向上につなげる。 〔長距離走〕 自己に合ったペースを見つけ、維持して走る。	〔水泳〕 バタフライ泳法の基本を習得する。 今まで学んだ泳法について各自が改善すべきポイントを見つけ、記録向上につなげる。	〔テニス〕 基本技能とルールを学び、ゲームができる力を付ける。 〔バレーボール〕 役割に応じたボール操作を身に付け、作戦を考えてゲームができる。	〔創作ダンス〕 ソーラン節特有の動きを軸に、学年全体で踊りを創作し、作品を発表する。	〔体育理論〕 スポーツの歴史、文化特性や現代のスポーツの特徴を理解する。	〔性感感染症の予防〕 病気を知り、予防する力を養う。 〔心の発達と青年期の精神発達〕 青年期の精神発達の特徴を知る。 〔欲求の充足と適応機制〕 より良い適応について考えられる力を養う。 〔医療保険制度〕 妊娠・出産・育児に関わる社会保障制度を知る。 〔心身相関〕 心の状態と身体が、密接な関係であることを知る。		
9年 (中3)	体を動かす楽しさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図る。	〔陸上競技〕 基本的な動きや効率の良い動きを發展させ、各種目の技能を身に付ける。	〔水泳〕 クロール・平泳ぎ・背泳ぎでは、効率良く泳ぐ力を付ける。 複数の泳法を組み合わせ、泳ぐ力や、長い距離を泳ぐ力を付ける。	〔バスケットボール〕 基本技能を身につけ、仲間と協力してゲームができる。 〔バドミントン〕 基本技能を身に付け、簡単なゲームができる。						〔創作ダンス〕 イメージをとらえた表現や踊りを仲間と協力して考え、作品を発表する。

音楽	<p>サードステージ目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を主体的に表現する。読譜の真の意味、その上で成り立つ独自の表現とは何かを考えて表現する。 ・音楽が社会や民族、歴史や宗教と密接に関わり発達したことを理解し、世界中の民族の文化と音楽の関わりを理解する。 ・西洋音楽の原点であるキリスト教音楽の発達の歴史、現代の音楽への影響を感じとり表現に深みをもたせる。
-----------	--

学年	表現（歌う・弾く）		知識	鑑賞	聖心の特色
12年 (高3)	〔合唱・歌唱〕 音楽の日 クリスマス用 「Die Schöpfung」 「Missa」曲 ほか	独唱、重唱、クラスの合唱を通して表現の違いを音で表わすことができる。 (時代、作曲家、曲種の違い)	〔世界の民族音楽と芸術音楽〕 ・社会や宗教、生活と音楽のかかわりを理解する。 11年 民族音楽とは、概論。 12年 地域、民族、宗教による特徴を知る。 アジア、中東からシルクロード経由 アラブ (イスラム圏) アフリカ ロマ アメリカ (中南米 北米) オセアニア諸国など 〔創作〕 (形式 旋律や歌詞と音との関係に気付く) メロディや対旋律をつくる。 小グループでのリズムアンサンブル創作 〔キリスト教音楽〕 ・西洋音楽の原点であるキリスト教音楽の発達の歴史を理解する。(10年から12年) 中世からルネッサンス →現代の作品まで 記譜法の歴史と変遷 宗教曲と世俗曲 〔日本伝統音楽〕 ・歌舞伎と三味線音楽 (10年) 「勸進帳」あらずじと日本人の感性を考える。 能楽、人形浄瑠璃 (文楽) など日本伝統音楽について知る。	・各地の民族音楽 (楽器や芸能) 各地域独特の音 (声 楽器) を聞く ・民族音楽の影響を受けた芸術作品 〔音楽表現 I & II (選択)〕 オペラ鑑賞教室 (新国立劇場)	〔必修、選択〕とも ・名曲を歌い込み、より高い表現を目指しつつ、西洋音楽の根底に流れるキリスト教の精神に触れる。 ・音楽活動を通して人としてのあり方も考え、感じとり行動する。
11年 (高2)	日本歌曲 卒業式の歌	生徒の力で譜面を読みとり、表現を工夫する力を身に付ける。		〔宗教合唱曲〕 Requiem 聞き比べ (Mozart Faure Verdi) その他の宗教曲	[キリスト教音楽] ミサ曲の構成や宗教音楽の意味を理解して表現する。
10年 (高1)	〔合唱・歌唱〕 ・大人になりつつある身体と理解力をより有効に活用し、歌唱表現に役立たせる。作曲家、時代、場面により表現を考え、工夫する意識を持つ。 「楽しい」だけではない表現のための工夫を模索する。 イタリア歌曲 音楽の日用合唱曲 宗教曲 (Messiah より、ミサ曲より) (その他のクリスマス用も名曲を扱う) ・多声音楽・無伴奏のハーモニー作りの楽しさを味わう。 校歌 (Händel)、送別の歌、など			グレゴリオ聖歌 オラトリオ 「Messiah」 「Die Schöpfung」 ミサ曲 「勸進帳」ほか歌舞伎の舞台 (国語科の歌舞伎教室に関連付けて) 三味線音楽	[総合的に音楽を捉える] ・中世やルネッサンスなどの西洋音楽初期からの様式や歴史的背景、記譜法の特徴や変遷を理解して表現に役立てる。 更に9年生においても機に応じて積極的に取り入れる。 音が鳴れば音楽になる、というわけではないことを理解して表現する姿勢を持つ。 ・世界の様々な地域や民族の音楽に触れ、その背景にある歴史や文化・宗教にも関心を広げ国際理解を深める。
9年 (中3)	〔合唱・歌唱〕 ・作曲者の意図を理解し、また、伸びやかな発声を求め、説得力のある表現 (合唱作り) をする。 合唱コンクール クリスマス行事や各種ミサ イタリア・カンツォーネ (ベルカント イタリア歌曲の特徴) 卒業式用合唱曲 など		〔音楽史〕 ・まとめ バロックから近代までの音楽的特徴と社会の動きを理解する。 〔楽典〕 調性判断、転調、三和音 既習の楽典の復習 〔オペラ〕 ・総合芸術としてのオペラについて (高1の歌舞伎との関連を導入)	・フランス近代の作品 (Ravel Debussy ほか) スペインの作品 (Rodrigo Falla など) ・オペラ 「アイーダ」 (Verdi)	

美術科	サードステージ 目標 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚上の効果と自らの目的を一致させ、表現を深める。 ・現代社会の問題に向き合い、表現や提案につなげる。
------------	---

学年	表現		鑑賞	発表	聖心の特色
	絵画・版画・彫塑	デザイン・工芸			
12年 (選択)	〔自由制作〕 共通テーマを設定し、それに答える形で各自表現手法を選び制作を行う。 例) テーマ：「修復あるいは再生」 ここ数年、様々な要因で崩れゆく日常を見つめ、それらの修復・再生を試みると同時に、その不可逆性について考える。 任意の表現手法： 絵画、映像、カレンダーのデザイン等	〔問題解決型学習〕（デザイン・工芸） 共通テーマに関連する問題解決型学習を行う。 例) テーマ：「修復あるいは再生」 サステナブル建築の提案と模型の制作を行う。不要になった物を利用した建築や、修復を繰り返しながら、長期的に利用を続けることのできる建築を考える。	美術作品を鑑賞し、自ら解釈すると同時に、時代の価値観や特有の技法等を知る。 他者の作品のみならず、自分の作品についても客観的に捉え、言語的に解釈する能力を養う。	文化祭・卒業式での校内展示	自らの気づきや考えを発展させ、探りながら答えを求めようとする姿勢を養う。
11年 (選択)	〔自由制作〕 共通テーマを設定し、それに答える形で各自表現手法を選び制作を行う。	〔問題解決型学習〕（デザイン・工芸） 共通テーマに関連する問題解決型学習を行う。	美術作品を鑑賞し、自ら解釈すると同時に、時代の価値観や特有の技法等を知る。 他者の作品のみならず、自分の作品についても客観的に捉え、言語的に解釈する能力を養う。	文化祭等での校内展示	自らの気づきや考えを発展させ、探りながら答えを求めようとする姿勢を養う。
10年	(This row is currently blank in the provided image)				
9年	〔氾濫するイメージ〕（絵画） PCでデジタルコラージュを制作する。既製品をモチーフとし、消費社会について考える。	〔光に託す〕（デザイン） ステンドグラス風のプラスチック版を制作する。光の効果と、疎密を意識したデザインを行う。卒業にあたっての思いをモチーフに込める。	美術作品を鑑賞し、自ら解釈すると同時に、時代の価値観や特有の技法等を知る。 他者の作品のみならず、自分の作品についても客観的に捉え、言語的に解釈する能力を養う。	文化祭・卒業式での校内展示	物事を問い直し、自らの見方を視覚的・言語的に提案する。表現力を養う。

書道	サードステージ 目標
	・書の表現の多様性を理解し、書写能力の向上を図り、伝統に基づき効果的・創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。
	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
	・主体的に活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造して いく態度を養う。

授業	科目	漢字の書（表現・鑑賞）	仮名の書（表現・鑑賞）	漢字仮名交じりの書（表現・鑑賞）	聖心の特色
12年 (高3)	書道特講 (選択)	<p>楷書・行書に加えて、篆書・隷書・草書と表現の幅を広げて、古典の鑑賞と臨書を行う。 鑑賞によって古典の雰囲気を感じ、特徴を捉え、臨書によってその雰囲気や特徴を表現するための技法を学ぶ。</p> <p>古典の学習を生かし創作を行う。個性豊かに表現を工夫し作品を仕上げ、鑑賞しあう。</p> <p>篆刻の学習 書体を選んで名印を制作。自分だけの印を作って、楽しむ。</p>	<p>古典の鑑賞と臨書を行い、用筆や運筆、字形、全体構成について学ぶ。</p> <p>三色紙を中心に、散らし書きの構成について学び、創作を行う。変体仮名を効果的に織り交ぜながら、連綿し、全体構成（散し書き）を工夫しながら作品を仕上げ、鑑賞しあう。</p>	<p>漢字仮名交じりの書の鑑賞を行い、その美を探る。</p> <p>自分の書を目指して、感動や思いを表現する。漢字と仮名の調和、作品の表現意図に合わせた効果的な用筆・運筆、線質や字形、全体構成、文字の大小、潤濁等工夫して仕上げ、鑑賞しあう。</p>	<p>書の伝統に基づき、自分の個性を大切にしながら、創造的に制作を行う。</p> <p>作品の相互鑑賞を通して、他者への理解を深める。</p> <p>(12年) 臨書する古典作品は、できるだけ、興味に合わせて自ら選択できるようにしている。</p> <p>生活の書として、日常生活で美しい文字が書けるように小筆の学習を行う。</p>
11年 (高2)	書道 I (選択)	<p>書体の変遷を理解する。</p> <p>楷書や行書を中心に古典の鑑賞と臨書を行う。鑑賞によって、古典の雰囲気を感じ、特徴を捉え、臨書によってその雰囲気や特徴を表現するための技法を学ぶ。</p> <p>古典の学習を生かして、倣書、創作を行う。意図に基づいて構想し、工夫して作品を仕上げ、鑑賞しあう。</p> <p>篆刻の学習 篆書を用いて名印を制作。限られた印面の中で文字を構成、配置する。</p> <p>生活の書 小筆の学習</p>	<p>仮名の成立と発達、種類について理解する。</p> <p>古典の鑑賞と臨書を通して、単体、変体仮名、連綿や散らし書きについて学ぶ。</p> <p>古典の学習を生かした創作を行う。変体仮名を効果的に織り交ぜながら、連綿し、全体構成（散し書き）を工夫しながら作品を仕上げ、鑑賞しあう。</p>	<p>漢字仮名交じりの書の鑑賞を行い、その美を探る。</p> <p>漢字、仮名の学習を生かし、漢字と仮名を調和させ、感動や思いを表現する。名筆に学ぶ表現を基本として、意図に基づいて構想し、工夫して仕上げ、鑑賞しあう。</p>	<p>(11年) 聖書の中から心に響く言葉を選び、創作を行う。</p>
10年 (高1)					
9年 (中3)					

外国語（英語） サードステージ 目標 文学作品や時事問題を扱う中で、セカンドステージまでに身につけた4技能を統合し活用する力をつける。

	文法事項	書くこと	読むこと	聞くこと	話すこと	異文化理解	聖心の特色		
12年 (高3)	句・節 名詞 形容詞 副詞 代名詞 比較	論理・表現Ⅲ / 英語コミュニケーションⅢ					海外の事情や異文化に関する理解を深めるとともに、異なる文化を持つ人々と積極的にコミュニケーションをはかるための態度や能力を養う。海外の事象や文化との類似点や相違点について考え、異文化理解を通して自国に対する理解を深める。	*エデック社 <i>Progress in English 21</i> 、オックスフォード社 <i>Q: Skills for Success: Reading and Writing</i> 、ロングマン社ペンギンリーダーズなどを使用して、少人数（習熟度別）の授業を展開する。学年始めのPlacement Testや定期テストの結果から、個々の生徒に適したグループ分けに努めている。	
		エッセイや要約を通じて事実や意見などを多様な観点から熟考し、論理の展開や表現の方法を工夫した文章を書く。 客観的なデータや収集し、それを自分の意見や裏付けるものとして活用した文章を書く。	精読・速読・多読・観賞を進め、題材に示された情報や考えなどを的確に理解し、それらを自分の考えと比較することによって、自らの考えを更に深める能力を伸ばす。 種々の情報に対して異なる視点を持って鑑賞する。	様々な媒体を通して、時事的な話題に関する情報を理解する。 ネイティブ・スピーカーのスピーチや講義を聞き取り、聞き取った内容から必要な情報を選択して活用する。	スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション等の活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。	フランス語・中国語			
		Writing II 英語演習・英文法Ⅱ	Listening II	Academic English II	*学習内容や語彙の定着のために細やかな指導を進め、丁寧な学習の継続を大切にしている。 (具体例として) ・授業内で頻繁に単語テストを行い、学年始めにはVocabulary Contestを実施して前年度に学習した語彙を確認する。高等科では並行して桐原書店「DataBsse 4500」を使用し、さらに語彙力をつける。 ・新しい事項の学習と同時に既習事項の定着を図る活動にも重点をおく。前年度に学習した文法事項の定着度を確認する「英語実力テスト」を学年始めに実施する。				
11年 (高2)	不定詞 動名詞 話法 助動詞 関係節 名詞	論理・表現Ⅱ / 英語コミュニケーションⅡ					海外の事象や異文化における表現方法や考え方を学び、日本文化との違いを理解する。 積極的に英語でコミュニケーションをはかろうとする姿勢を育てる。	*様々な活動を通して、語彙を英語で理解する習慣をつける。 *ベネッセのスコア型英語テスト GTEC (Advanced Level) を9年生から毎年実施。経年変化と共に客観的な英語力を把握する。 *実用英語技能検定試験、中等科では準2級程度の取得、高等科卒業時には準1級の取得、最低でも2級の取得を勧める。 *授業の始めに英語の祈りを唱える。	
		エッセイライティングの段落組みを学ぶ。構成に注意して、4-5パラグラフをエッセイとして書く。作品の内容をベースに、論理的思考を磨き、説得力のある独自の文章を書く。	シェークスピア作品や様々な社会問題の題材を通して、英語への感性や表現力を学ぶ。 精読・速読・観賞を通して、段落ごとの内容を読み取る力を養う。	映像教材によって、台詞の聞き取りを強化し、状況把握や登場人物の心情の読み取りなども進める。 音声教材全般を通して、抑揚、発音、その他の表現を学ぶ。	寸劇やディスカッション等の活動を通して、対話能力を高める。 教材を理解し、内容に関する質問に的確に答える。 スピーチ、プレゼンテーションやディスカッションによって表現力を磨く。	Writing I 英文法Ⅰ			Listening I
		Writing I 英文法Ⅰ	Listening I	Academic English I					
10年 (高1)	時制 仮定法 分詞 不定詞 話法 助動詞 関係詞	論理・表現Ⅰ / 英語コミュニケーションⅠ					言語・文化・歴史的背景を学び、異文化理解を深める。言葉の由来や単語の語源などを歴史的背景から学ぶ。 世界の諸問題を日本からだけでなく、違う視点からも考えて理解を深める。 日本語と英語の表現の違いに着目し、間違いやすいポイントを意識する。類似する意味を、どのような場面で使うのかを具体的に考える。	*様々な活動を通して、語彙を英語で理解する習慣をつける。 *ベネッセのスコア型英語テスト GTEC (Advanced Level) を9年生から毎年実施。経年変化と共に客観的な英語力を把握する。 *実用英語技能検定試験、中等科では準2級程度の取得、高等科卒業時には準1級の取得、最低でも2級の取得を勧める。 *授業の始めに英語の祈りを唱える。	
		聞いたり、読んだりしたことの概要や要点を書く。 段落の内容を簡潔にまとめたトピックセンテンスや、作品に対する自分の意見を複数の段落で書く。 文学作品の内容に関する自分の意見をまとめて書く。 社会問題に関する自分の考えを持ち、具体例を交えて作文する。	物語、エッセイ、新聞記事を読み、全体の要旨や要点を捉えて理解する。 速読教材を実施、スピードを意識して英文を読む。 読んだ文章の文化的背景や社会問題などについての理解を深める。	会話文やアナウンスなど様々な英語を聞いて、その内容を理解する。日本語を介して理解するのではなく、英語で理解できるようにする。 音声教材を通じて、発音、抑揚などを学ぶ。日々の単語テストでは、教員が発音する英単語を書き取るなど、普段から発音に意識を向けるようにする。	身近な話題を中心に、目線、ジェスチャー、リズム、イントネーション、発表姿勢などに気を付けてプレゼンテーションを行う。 事実と意見を区別し、整理して伝える。	Writing I 英文法Ⅰ			Listening I
9年 (中3)	関係代名詞 関係副詞 分詞の形容詞的用法 副詞節 分詞構文 話法 仮定法 形容詞句・副詞句 助動詞	オーラル・コミュニケーション / 英語					英語圏（英国・インド・ニュージーランド）の言語・文化・歴史的背景などを広く知る。	*実用英語技能検定試験、中等科では準2級程度の取得、高等科卒業時には準1級の取得、最低でも2級の取得を勧める。 *授業の始めに英語の祈りを唱える。	
		英語で物語の要約・対話・手紙などを書く。課題に対する自分の意見を客観的理由を述べながらパラグラフを組み立てる。	5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように）を意識して英語の文章を読む。	毎授業で扱う新出単語、熟語を用いた対話文を理解する。 対話文や例文を使用してディクテーションの練習をする。 教科書の“READ”（ストーリー、長文）の導入として、短いQ&Aを扱うことで概要を把握する。	教科書に登場する歴史上有名な人物を題材に発表を行う。 身近なものを説明したり、興味関心のある題材についての短いスピーチを行う。	Writing I 英文法Ⅰ			Listening I

家庭

サードステージ 目標

- ・生活をマネジメントできる知識や技術を身につける。
- ・栄養を考えて調理をしたり、被服製作の基礎を身につけて自らの被服を製作したりする力をつける。
- ・日々の生活を科学的・客観的視点で見つめ直し、行動を起こして改善していく力をつける。

学年		家族・家庭生活	食生活	衣生活	住生活	消費と環境	聖心の特色
12年 (高3)	必修	〔人の一生と家族・家庭〕〔高齢期の生活〕〔共生社会と福祉〕 ライフステージを見通し、家族や高齢期の生活・福祉について理解を深める。家族に関する法律や社会の状況へも目を向け、皆が協力して家族を形成する意識を高める。				〔家計の管理〕 〔生涯を見通した生活設計〕 家計の構造を理解し、リスク管理や資産形成の視点も踏まえて、将来を見通した経済計画を考えられる力をつける。	10年生までの学習内容を基礎に、11・12年生の選択科目でより高度な技術を身につけ、学習内容を深め、実践力を高めていく。 例 ・スカート ・ゆかた ・世界各国の料理 ・高齢者や幼児の食事 12年生の必修科目では、社会に出る直前の段階として、自立した人間として自らの生活を主体的に考え、創造していくための力を身につける。
	選択		〔おいしさの科学と調理〕 〔食生活のデザインと実践〕 食品や調理、食文化についての理解を深め、食文化を継承し実践していく力を養う。栄養とおいしさを考えた食事を作るために必要な知識と技術を身につける。	〔衣服の構成と作品製作〕 浴衣の製作や着付けを通して、衣服に関わる歴史や文化について理解し、伝統文化を継承する態度や製作技術を身につける。			
11年 (高2)	選択		〔おいしさの科学と調理〕 〔食生活のデザインと実践〕 食品や調理、食文化についての理解を深め、食文化を継承し実践していく力を養う。栄養とおいしさを考えた食事を作るために必要な知識と技術を身につける。	〔衣服の構成と作品製作〕 被服や被服材料について科学的に理解する。製作に必要な知識と技術を習得し、発想を生かして製作を行う。			また授業で身につけた力を、実生活に生かし、各学年での奉仕活動などを、周囲の人のために役立てる機会とする。 例 ・クッキーセールに参加し、収益金の寄付に貢献する。 ・初等科生へのプレゼントとしてキャンディーバッグを製作する。
10年 (高1)	必修	〔子どもの発達と保育〕 乳幼児の心身発達の特徴を知り、健やかに成長していくために必要な親の役割や環境、子育て支援について理解を深める。	〔食事と健康〕 ライフステージに応じた、健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの知識を身につける。栄養や調理に関する基礎的な知識を使って、簡単な献立をたて実践する力をつける。	〔被服の機能と材料〕 簡単な製作を通して、衣服の性質を理解するとともに、社会とのつながりを意識しながら、被服を適切に活用・管理する力をつける。	〔住居と住環境〕 快適に生活するために必要な住居の機能、住環境の整え方について科学的に理解する。防災や環境への意識も高め、主体的に住環境を整える力を身につける。	〔消費行動と意思決定〕 消費者の権利と責任について理解し、情報を収集し主体的に判断できるようにする。自らの行動と環境や社会への影響も考慮しながら、自立した消費者として行動できる力をつける。	福祉施設へ寄付する雑巾を作る。 ・卒業する12年生が新7年生のために、体育大会用のハチマキの布を用意する。 ・12年生の冬に保育園に実習に行く。
9年 (中3)							

情報	サードステージ 目標			
	・情報社会に参画する態度を育成する		・問題解決能力を育成する	

学年	科目	情報活用の実践力	情報の科学的理解	情報化社会に参画する態度	聖心の特色
12年 (高3)	情報Ⅰ (必修)		〔情報通信ネットワークとデータの活用〕 情報のデジタル化のしくみについて知る。 情報通信ネットワークとコミュニケーションについての理解を深める。 情報通信ネットワークの仕組みについて知る。		情報機器を活用したプレゼンテーションを行い、情報の収集・処理・発信の総合的な扱いの方法を学ぶ。 また、デジタルデータの仕組みやネットワークの基礎を学び、将来的な情報ネットワークの新規考案など社会に貢献する力を養う。
12年 11年 (高3 高2)	メディア演習 (選択)			〔コミュニケーションと情報デザイン〕 コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える。 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善する。	子どもたちを取り巻く情報化社会に日々起こる様々な現象を捉え、その原因を考えることによって、情報化社会での生き方を学ぶ機会としている。レポートやプレゼンテーションを通してその理解や考えを深める。 情報機器を活用して、短編映画やCMなどを作成し、デジタル機器の効果的な取り扱いやデジタルデータの特長を生かしたメディア作品作りを行う。
	プログラミング (選択)		〔コンピュータとプログラミング〕 アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付ける。 〔情報通信ネットワークとデータの活用〕 データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解する。		2025年度入試から大学入試共通テストの科目に「情報Ⅰ」が組み込まれた。 2022年12月現在で、国立大学の約70%が何らかの形で情報Ⅰを課すことを決定。うち約半数の44大学は全学で必須とした。私立大学の科目指定は明らかではないが、今後指定されることも予想される。 本校では、情報科社会に生きる資質に重点を置いて情報教育を行ってきたが、共通テストでのプログラミングやデータの分析の出題に対応するべく、時間をかけて学べるように選択科目を置いた。この科目は、プログラムを得意とする生徒対象ではなく、まったくプログラミングを学んだことのない生徒を対象として共通テストに備えることを目的として設置している。
9年 (中3)	情報Ⅰ (必修)	〔情報社会の問題解決〕 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。	〔コミュニケーションと情報デザイン〕 メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて、科学的に理解する。	〔コミュニケーションと情報デザイン〕 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける。	情報化社会の問題点や情報機器の落とし穴に目を向け、情報機器を用いたトラブルに巻き込まれないための知識を身に付ける。 また、著作権法や刑法などの関係諸法律の原文にふれ、情報化社会に参画する市民としての義務を学ぶ。 また、各教科等で活用できるような情報表現能力やプレゼンテーション能力を養う。 ※本校では併設型中高一貫校の特例により、高等学校「情報Ⅰ」のうち1単位を9年生で履修している。

探究学習	<p>サードステージ目標</p> <p>「探究のサイクル」(探究→発表→共有→探究)を意識させる。</p> <p>「探究のサイクル」を実践し社会と繋がる。自己・他者・社会探究に決まった型はない。自由に楽しむ。</p>
-------------	--

学年	聖心の特色		内容
12年 探究	週2時間の探究の時間に 個々に探究する	4月末	テーマ最終確認(メンターに報告)
		7月	第2次中間報告 内容：進捗状況, 記録提出までの計画
		11月	記録提出(メンターに提出) 提出形態：動画や音声付きスライドショー(10分以内) 内容：タイトル・目的と概要(探究の動機, 何をどうしようとしたものか)・探究の過程(結果)と考察(どのような手法を利用して実施したか。何ができ, 何ができなかったか。)
		～冬休み前	発表 内容：タイトル・目的と概要・探究の過程
		1月	動画の鑑賞, 優秀賞選出 優秀賞のプレゼンの選出 要旨提出(メンターに)
11年 探究テーマの調査	個々の関心に沿って, テーマを調査する	4月	アンケートやインタビューの結果提出 講演会, ワークショップに参加したり, 文献にあたり, 記録を蓄積する。
		7月 午前授業の午後 ～9月	講演会：研究者・創作者・活動家の方の講演会・パネルディスカッション
		10月	記録の提出
		1月 2週目午後の1時間	第1次中間報告(グループに分かれて) 内容：進捗状況, テーマを絞るための今後の計画
		2024年度以降	12年生の探究の優秀賞プレゼンを聞く。
		2月	メンター決定, 適宜メンターと顔合わせ
10年 探究領域の調査	浅く広く, 自らの興味に 目を向ける 探究の手法を知り, 練習する	7月 午前授業の午後 他学年宿泊行事初日	講演とワークショップ「探究とは何か」 午前：ガイダンス1 探究に必要なスキル(探究の体験談)文系(全体)・理系・芸術系 午後：研究者・創作者・活動家の方の講演会・パネルディスカッション
		夏休み課題	興味のあるもののキーワード5~10個を理由とともにワークシートに記入する
		10月 みこころ祭翌週LHR 課題	キーワードの発表・共有(授業のグループに分かれて) ガイダンス2 文献検索の方法・創作の方法 キーワードの中から3つ以上選び, 実際に動き, 探究する。
		1月 冬休み明け2週目LHR	キーワードに関する探究の記録の発表(授業のグループに分かれて)
		3月 答案返却1日目午後 春休み課題	ガイダンス3 アンケートやインタビューの方法 キーワードに関連するアンケートやインタビューの実践